

地 球 温 暖 化 対 策 実 施 状 況 書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	名古屋都市エネルギー株式会社
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	名古屋市中区丸の内三丁目 2 0 番 1 7 号
工 場 等 の 名 称	SL24DHCエネルギーセンター
工 場 等 の 所 在 地	名古屋市中村区平池町 4 丁目 6 0 番 6
業 種	電気・ガス・熱供給・水道業
業務部門における 建築物の主たる用途	学校
建築物の所有形態	賃貸ビル等（賃貸している建築物）
事業の概要	ささしまライブ 2 4 地区への熱供給、及び愛知大学名古屋校舎への電力供給
計 画 期 間	令和5年4月1日 ～ 令和8年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

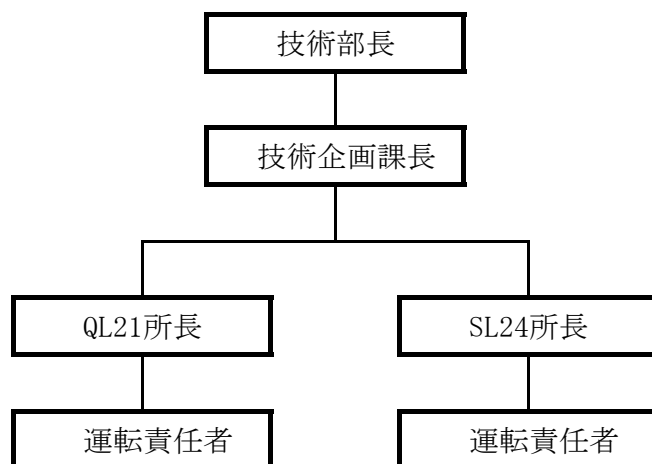
公 表 期 間	令和6年5月1日 ～ 令和6年7月30日		
公 表 方 法	○	掲 示 閲 覧	（ 場 所 ） SL 2 4 DHCエネルギーセンター・本店
		ホ ー ム ペ ー ジ	(HPアドレス)
		冊 子	(冊子名・ 入手方法)
		その他	(その他詳細)
公表に係る問合せ先	052-589-1281		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

名古屋都市エネルギーは、地球温暖化対策としてのＣＯ２削減・省エネルギーの推進、エネルギーの安定供給に資するため、電力供給会社及びガス供給会社との連携を図りつつ、環境性や経済性に優れかつ信頼度の高い熱供給事業の推進に努めてまいります。

(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目（令和 5 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		4,866	t-CO ₂
（温室①を酸効除炭ガス換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）	4,866	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 4 年度		令和 7 年度		令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度			
温室効果ガス総排出量		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）				%		%		%		%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）						%		%		%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 4 年度		令和 7 年度		令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度			
原単位あたりの排出量	0.04799	t-CO ₂ / GJ	0.04655	t-CO ₂ / GJ	0.04815	t-CO ₂ / GJ		t-CO ₂ / GJ		t-CO ₂ / GJ
削減率（対 基準年度）			3.0	%	▲ 0.3	%		%		%
原単位あたりのみなし排出量						t-CO ₂ / GJ		t-CO ₂ / GJ		t-CO ₂ / GJ
削減率（対 基準年度）						%		%		%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

より高効率な熱源機の優先運用を目指したが、夏季の高気温のため優先運用に限界があり上記の結果となった。
--

- 備考 1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考 2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考 3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。
- 備考 4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源の推進／設備の運転管理	・熱需要に応じたきめ細かい設備運転管理による効率維持向上 ・再生エネルギーの有効活用	関係者による運転実績及びエネルギー使用実績のレビューを毎月実施し、省エネルギーに向けた適正な運用が	計画どおり実施した。
一般管理／エネルギー使用量等の把握及び管理	・エネルギー使用量の把握・計測・記録・分析評価	同上	計画どおり実施した。
省エネルギー・省資源の推進／設備の運転管理	冷温水供給設備のエネルギーロスを低減する。	供給圧力の制御性を改善し、ポンプ動力を低減する。	2024年1月に制御機器を改造し、供給圧力の制御性を改善した。 (夏季に再調整)
省エネルギー・省資源の推進／その他	定期点検、予防保全にともなう廃棄機器の削減	機器取替周期を延長し、廃棄機器を少なくする。	長期保全計画を見直し、一部機器について更新周期を延長。
省エネルギー・省資源の推進／冷暖房	・クールビズ、ウォームビズの実施 ・外気導入による空調機・熱源機の運転時間削減	年間を通じてクールビズ、ウォームビズを実施。	計画どおり実施した。
省エネルギー・省資源の推進／その他	・ICTを活用し以下を促進する。 ・リモート会議 ・在宅勤務	会議の半数以上はリモート会議とする。	計画どおり実施した。

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目 (令和 5 年度) における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)
2017年度	下水再生水利用設備	冷却用放熱 : 36, 487GJ、温熱源利用 : 6, 911GJ
2017年度	太陽熱利用設備	利用熱量 : 30GJ

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用状況

計画期間 1 年度目 (令和 5 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

・ ミックスペーパーを分別収集した。

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

・ 定時退社を周知した。
